



子どもタイムズ

2014.3.1
平成26年 27号

発行：多可町教育委員会
〒679-1134 多可郡多可町中区茂利20
☎0795-32-2385
E-mail kodomo@town.taka.lg.jp



おもな内容

- ・子ども・子育てのニーズ調査結果
- ・びっくあっぷが学校園
- ・あったかトビック

子ども・子育てのニーズ調査結果

町では、平成25・26年度に策定する「子ども・子育て支援事業計画」の基礎資料として、町内の就学前の幼児をもつ保護者（以下「就学前」という。）及び小学生の児童をもつ保護者（以下「小学生」という。）を対象にニーズ調査を実施しました。保育ニーズや子育て支援サービスの利用状況、利用意向、また子育て世帯の生活実態、要望・意見などを把握

することを目的に調査したものです。調査の対象者数は1599人で、回収率は83%でした。調査にご協力をいただき、ありがとうございます。

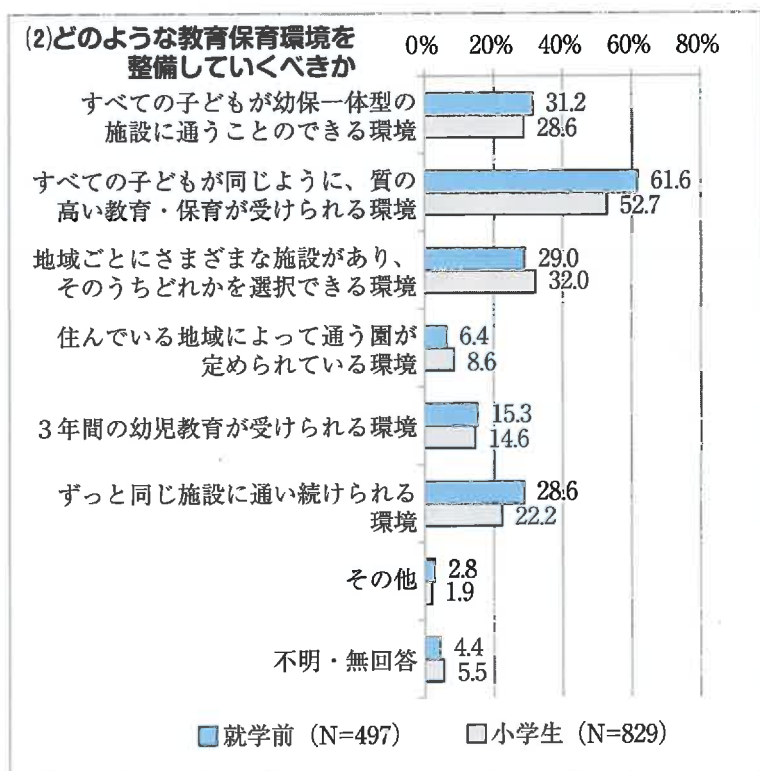
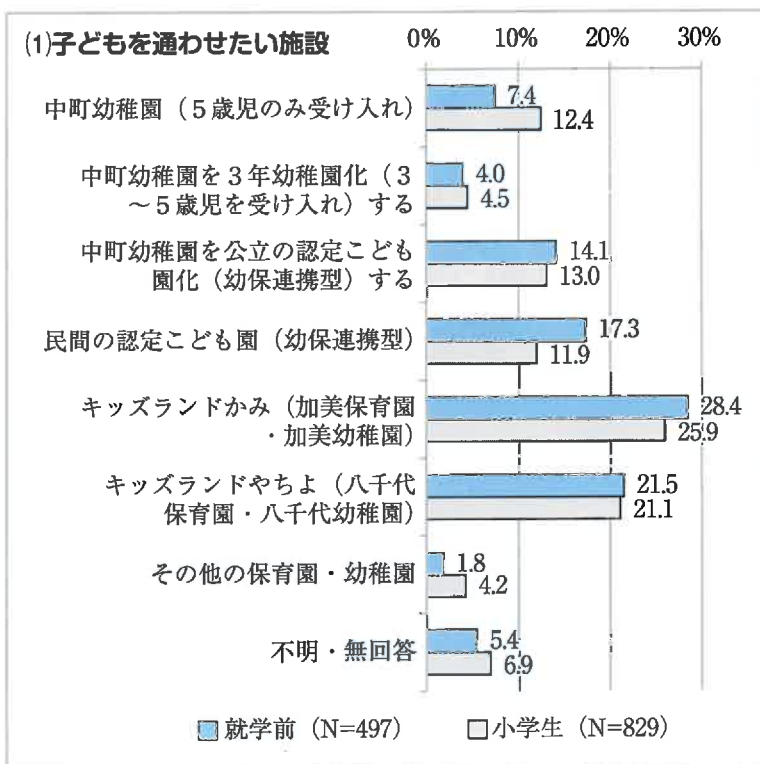
今回は調査結果の中から、その主なものをご紹介します。

（1）子どもを通わせたい施設
（単数回答）〔就学前調査・小学生調査：問1〕

子どもを通わせたい施設についてみると、「キッズランドかみ」が就学前で28・4%、小学生で25・9%と最も高く、次いで、「キッズランドやちよ」が就学前で21・5%、小学生で21・1%となっています。

（2）長期的にみて、多可町ではどのような教育・保育環境を整備していくべきか（複数回答：3つまで）〔就学前調査・小学生調査：問2〕

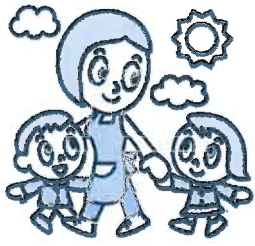
長期的な多可町の教育・保育環境の整備についてみると、「すべての子どもが同じように、質の高い教育・保育が受けられる環境」が就学前で61・6%、小学生で52・7%と最も高くなっています。次いで、就学前では「すべての子どもが幼保一体型の施設に通うことのできる環境」が31・2%、小学生では「地域ごとにさまざまな施設があり、そのうちどれかを選択できる環境」が31・2%、小学生では「地域ごとにさまざまな施設があり、そのうちどれかを選択できる環境」が32・0%となっています。



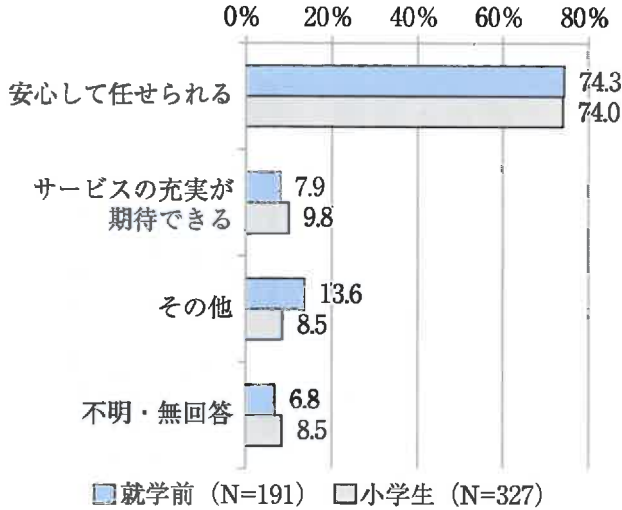
(3) キッズランド(かみ、やちよ)の民営化についてどう考えるか(単数回答)〔就学前調査・小学生調査:問3〕

キッズランド(かみ、やちよ)の民営化をどう考えるかについてみると、「公立がよい」が就学前で38・4%、小学生で39・4%と最も高くなっています。次いで、就学前では「わからない」が23・5%、小学生では「どちらでもよい」が25・2%となっています。

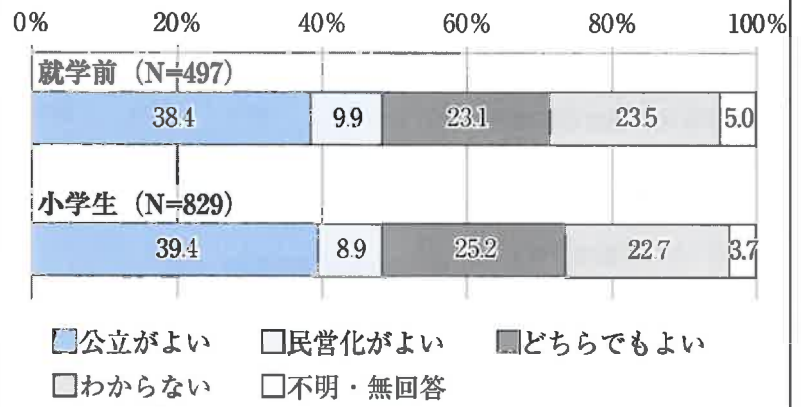
「公立がよい」または「民営化がよい」を選んだ理由についてみると、「公立がよい」では「安心して任せられる」が就学前で74・3%、小学生で74・0%と最も高くなっています。一方、「民営化がよい」では、「サービスの充実が期待できる」が就学前で69・4%、小学生で66・2%と最も高くなっています。



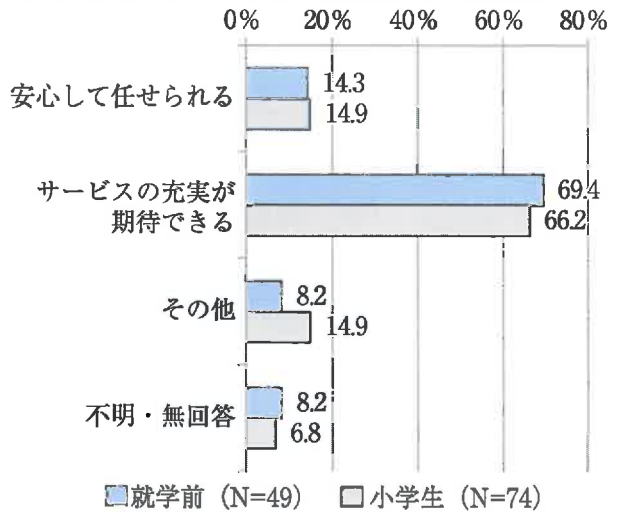
◎「公立がよい」を選んだ理由(単数回答)



(3)キッズランド(かみ・やちよ)の民営化

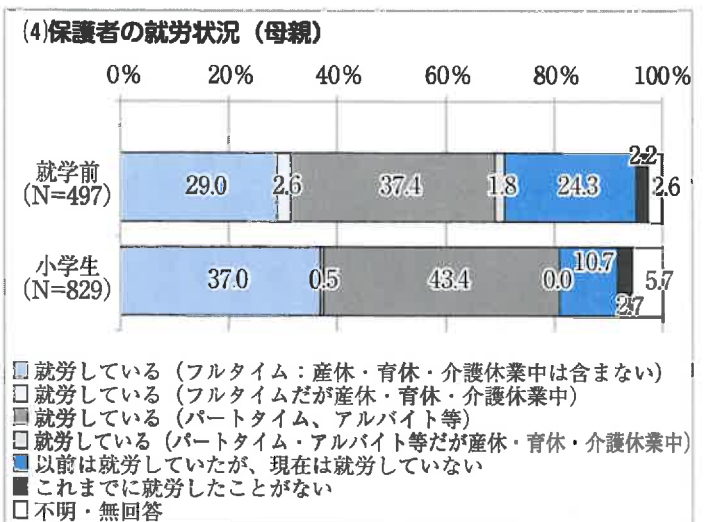
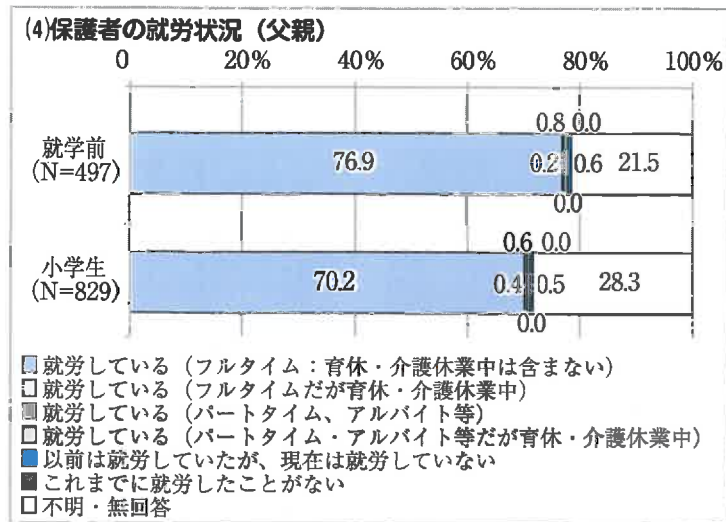


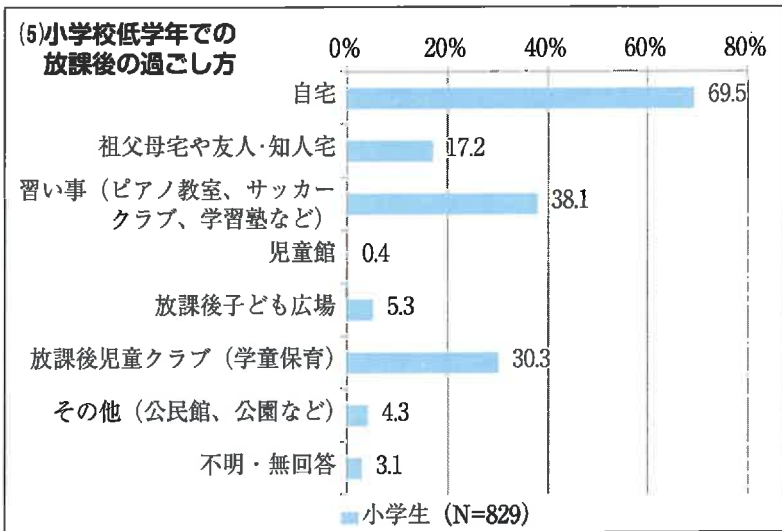
◎「民営化がよい」を選んだ理由(単数回答)



保護者の就労状況についてみると、母親では「就労している(パートタイム、アルバイト等)」が就学前で37・4%、小学生で43・4%と最も高くなっています。父親では「就労している(フルタイム; 育休・介護休業中は含まない)」が就学前で76・9%、小学生で70・2%と最も高くなっています。

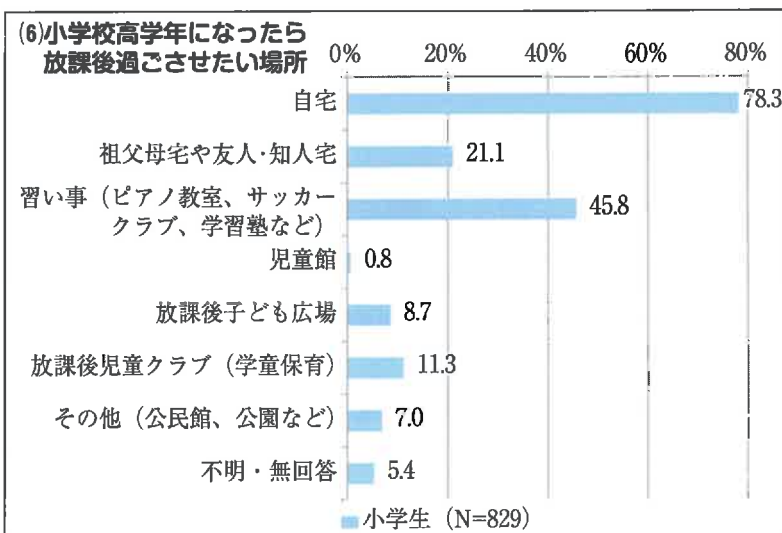
(4)保護者の就労状況(単数回答)〔就学前調査:問18、小学生調査:問16〕





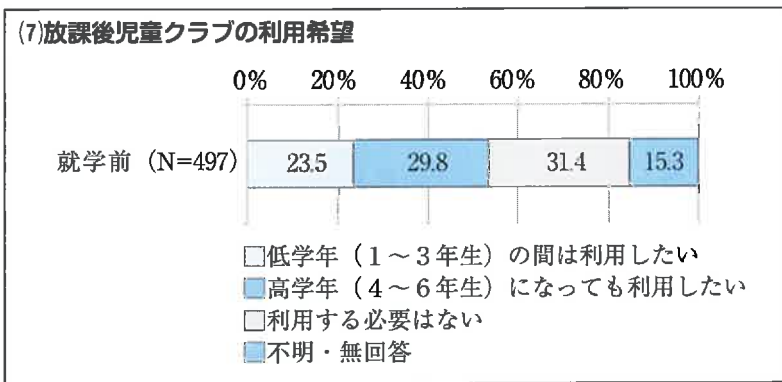
(5) 小学校低学年での、放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方(複数回答)。「小学生調査:問19」

小学校低学年での、放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方についてみると、「自宅」が69・5%と最も高く、次いで「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が38・1%となっています。



(6) 小学校高学年(4~6年生)になったら、放課後(平日の小学校終了後)の時間を過ごさせたい場所(複数回答)。「小学生調査:問20」

小学校高学年になったら、放課後(平日の小学校終了後)に過ごさせたい場所についてみると、「自宅」が78・3%と最も高く、次いで「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が45・8%となっています。



(7) 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望(単数回答)。「就学前調査」

長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用する必要はない」が31・4%と最も高く、次いで「高学年(4~6年生)になっても利用したい」が29・8%となっています。希望する利用時間帯について、開始時間では「8時」、終了時間では「18時」の割合が、

(7) 放課後児童クラブの利用希望時間帯

開始時間	就学前 (N=265)		終了時間	就学前 (N=265)	
	件数	%		件数	%
6時前	1	0.4	12時	3	1.1
7時	14	5.3	13時	3	1.1
8時	146	55.1	14時	1	0.4
9時	82	30.9	15時	12	4.5
10時	4	1.5	16時	35	13.2
11時	0	0.0	17時	83	31.3
12時	0	0.0	18時	102	38.5
13時以降	5	1.9	19時	12	4.5
不明・無回答	13	4.9	20時以降	2	0.8
			不明・無回答	12	4.5

それぞれ最も高くなっています。ニーズ調査結果に基づき多可町では、今後確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出し、住民の皆様への教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や、「今後の利用希望」を、「子ども・子育て支援事業計画」の中に盛り込んでいきます。また調査結果は他に、認定子ども園などの整備や、放課後児童クラブの対象年齢の拡大など、子ども・子育て支援新制度に基づく新たな施策や拡大する施策の検討材料にも活かしていきます。

ぴっくあっぷが学校園

五感を通して育つ力

五感を生かす「原体験」を大切に保育しています。直接物に触れたり、嗅いだり、味わったり、視たり、聴いたりといった様々な体験をする中で、不思議さを感じ、感性を磨き、心に残る思い出を増やしてほしいと思っています。



●5歳児の学年活動では、役員さんの提案で初めて飯盒炊きをしました。火おこしの準備は役員さんにお世話になり、園児はお米をとぎました。火が燃える様子やにおいに興味をもち、沸騰しかけるとまた違う香りが漂い、蓋をあけてお米を見るのが楽しみにしました。大成功のご飯でカレーを作り、美味しくいただきました。また飯盒炊きさんの後、炭火でマシユマロを焼きました。フワフワ、トロトロで今まで味わったことがない食感を楽しむことができました。

キッズフレンドやちよ



●4歳児の学年活動では、フィールドビンゴゲームを通して五感を使って触れ合い遊びを楽しみました。親子のグループで森にでかけ、チクチクする葉っぱ、フワフワした物、赤い木の実、甘いにおいのする物などのアイテムを探し、ビンゴで得点を競いました。何気なく森を散歩するのは違って、たくさん気づきと驚きがありました。

●オープンスクールに原体験教育研究会の主宰として活躍されている山田卓三先生にお越しいただき、園庭の自然物で遊びを教えていただきました。山田先生が作られた筒の笛に魅了され、吹き始めた子ども達でしたが、なかなか鳴らなくて、夢中になって遊びました。



超ホットな「ちよホットニュース」

「学校ぐるみで友だちの良さを見つめる」

本校では、二期期から「ちよホットニュース」という取組を始めました。「ちよホット」とは、「ちよっと」「ホットな」ということです。心がほんのり温かくなる友だちの行いを、全校のみんなに紹介しようというものです。

いくつか見てみましょう。

・トイレのスリッパがそろっていないのに気づいて、自分がいっていないかつたスリッパをそろえていました。

・ブランコに乗っていると、六年生のお兄ちゃんがやさしくせなかをおしてくれました。

・学校の帰りに一年生の男の子がこけて、二年生の女の子がバンドエイドをはってあげていました。

ちよホットニュースを見つけたい子は、ハートの絵が入った紙に書いて、ポストに入れます。給食の時間に、ちよホットニュースのコーナーがあり、ポストに入れた子が、発表してくれます。

書いても

らった子の照れた顔。嬉しそうな顔。それを取り巻くクラスみんなの何とも温かい雰囲気。

お腹も心も満たされるひとときです。



紹介されたハートは、ちよホットニュースの木に掲示されます。百十一個のハートが1本の木に実りました。現在2本目が大きく花開こうとしています。

互いの良さに気づき、認め合う、そんな仲間がこれからどんどん増えていくように、この取組をさらに発展させていきたいと思っています。
「ちよっと」どころではなく、「超」ホットなニュースである学校をめざして！



中町南小学校

学校園



杉原谷小学校

真新しい体育館が完成したよ!



「うわー、すごい」「体育館、きれいなったなあー」...。新しく完成した体育館に初めて足を踏み入れた時の子どもたちの言葉です。

七月中旬より始まった耐震補強大規模改修工事。九月末に完成予定でしたが、工期延長により十一月二十日によりやく完成しました。外観は変わっていませんが、災害時の避難所運営等にも対応するために様々な工夫が凝らされ、使いやすく快適な体育館に生まれ変わりました。完成から二日後、体育倉庫やトイレなど、格段に使いやすくなった施設・設備等の見学も兼ね、ぐるっと館内を一巡りしてみると、子どもたちはその機能の良さに驚いているようでした。また同日、初めての児童集会

(歌声集会)

では、全校生で振り付きの『ドレミの歌』を歌いました。明るく元気な、そして、爽やかな歌声が体育館



中に響き渡り、心地よい気分になりました。これからも、学校だけでなく地域の体育館として、大いに活用いただけたいと思います。

工事に携わっていただいたみなさん、こんなに素晴らしい体育館を造ってくださってありがとうございました。

ほくたちは、この新しい体育館で早くドッジやバスケットなどをしたくて、完成するのを待っていました。きれいな体育館に入れて最高の気分です。きれいになった床やステージ、新しくなったトイレや更衣室などに感激しました。

工事をしてくださったみなさん、暑い日や雨の日など、どんな天気でも工事に一生けん命に取り組んでいただき、ありがとうございました。

ほくたちは、このきれいな体育館をみんな大切に使用していきます。

【児童代表感謝の言葉】



八千代西小学校

今、全国で「命の授業」が多く行われています。インターネットで検索してみると、どれも「命」を扱っていますが、取り上げる題材や対象者の年齢等で内容がずいぶん違います。



本校の「命の授業」は、5・6年生を対象に、命の誕生の不思議さや命の大切さを実感し、赤ちゃんとお母さん、妊婦さんとのふれあい体験を通して家族の思いを知るとともに自尊感情を育むことをねらいとしています。

本年度は、1月のオーブンスクールの日、「命の授業」を行いました。講師の助産師さんから自分たちがどのようにして生まれてきたのかを学び、産道体験や妊婦体験をしました。そして、この日のために学校に集まってくれた11名の赤ちゃんたちとお母さん方とふれあい、笑顔いっぱい時間を過ごしました。また、他の学年は、地域の栄養士さんたちにお越しいただき、3・4年生は、「じょうぶなほね」を、1・2年生は、「栄養バランス」をテーマに「食」に

「命」と「食」の授業

～自尊感情を高めるために～

関する授業を行いました。【子どもたちの感想】

「いろんな食べ物にえいようがあることがわかったから、おうちでもバランスよくたべたいです。」(2年)

「ほねの大切さを知りました。自分のことだけでなく、ほねのことも考えて給食をのこさずしっかり食べたいです。」(4年)

「長い長い時間をかけ、一つの命が誕生するということにすごく感動しました。(中略)長い時間をかけて産んでくれた大切な命を自分で守りながら生活していきたいです。」(6年)

「命が誕生することは、奇跡だということが分つてびっくりしました。(中略)命の大切さがすごく分つたので、人を傷つけないようにしたいと思いました。これからは、虫などの命も大切にしたいです。」(6年)



このような授業をとおして、自尊感情を高め、自分が好き、友だちが好き、学校、地域、そして、ふるさとが好きになる子の育成に取り組んでいきます。



びっくあっぷ

感じて学ぶ自然と文化！ 最強 memory in うちなー！

「エーリンヤツ！」
掛け声がかかると、独特のリズムに乗って、南国らしいあざやかな色の民族衣装姿の生徒がグラウンドいっぱい飛び出してきました。加美中学校体育祭演技は三年生によるエイサーです。

エイサーとは、沖縄の旧盆最終日に祖先をあの世へ送り出すための念仏踊りのことです。

加美中学校では修学旅行で沖縄へ行きます。今年、「沖縄の自然や文化に学ぶ」をテーマに、五感を通して平和や文化について学びました。修学旅行の二日目、生徒達は、エイサーを観て踊り手の皆さんから指導を受けました。最初は慣れないリズムと動きに四苦八苦していましたが、しかし、太鼓をたたき衣装を身にまとっての練習となると自然と力が入り、二時間後にはずいぶんエイサーらしくなりました。

修学旅行後、生徒達の中から



太鼓作り



衣装作り

加美中学校



体育祭



子ども芸能祭

体育祭で「エイサーをやりた」という想いが高まり、練習を始めました。

体育祭では、夏休みから踊りこんできただけに自信に満ち真剣かつ笑顔あふれる演技を行うことができ、「めんそーれ」と力一杯の叫びで演技を終えました。

生徒の感想からは、「自分達で作った衣装と太鼓で踊るのは楽しかったです。」「三年生皆でがんばってきたから気持ちが入りました。」など、充実感が伝わってきました。

また、多可町子ども芸能祭に出演することになり、「もう一度エイサーができる！」と喜んで参加しました。

観ていただいた方には、「南国沖縄を感じました。」「すごくよかったですよ！」と言っていたことができました。

「震災に学ぶ」防災学習講演会

あれから19年！

「阪神・淡路大震災」を忘れるな！

平成7年1月17日午前5時46分、19年前のあの時、この多可町でも「ゴー」という聞いたことのない音（地鳴り？）の後、「グラグラグラ」と体験したこともない地震におそわれました。保護者の方々は当然覚えておられるでしょう。

危険を感じ、生まれて間もないお子様の上に覆い被さったお父さん、お母さんもおられたことでしょうか。

本校では今年も1月17日（金）に地震を想定した「避難訓練」と「阪神淡路大震災」の「追悼集会」を行いました。これまでの避難訓練は、「授業中に地震が発生、教師の引率で避難する」という形態でしたが、今回の訓練は昼休み、つまり休み時間中に地震が発生、各自が自分で考えて避難するという形態で行いました。教室にいた者



廊下にいた者、屋外にいた者、それぞれがそれぞれの場所からグラウンドに避難しました。初めての試みだったせいか、避難中、若干無駄話をする生徒がいたのは残念でしたが、避難指示からわずか「3分37秒」で全生徒が無事避難しました。

実際に避難しなければならぬような事態が発生すれば大変なことですが、地震や火事に限らず、最近是不審者の侵入等も絶対に起こらないとは言えない時代ですので、平素からこうした訓練には真剣に取り組むことが大事であると考えています。避難訓練後は体育館に移動し「追悼集会」を行い、多くの犠牲者に対して「黙祷（もくとう）」を捧げました。



その後、防災学習として東日本大震災で被災された医師、森安章人氏（当時、宮城県石巻市立病院勤務）の講演「大災害で自分たちにできること」を聞き、学習を深めました。

八千代中学校

ぴっくあっぷ学校園

北はりま特別支援学校

明るく 仲良く 生き生きと



落ち着いて、心を込めて
美味しいお茶を♡

北はりま特別支援学校は、小学部・中学部・高等部・のぎく訪問学級・きずな訪問学級・在宅訪問学級で、全校児童生徒151名が、学校・医療福祉センター・自宅で、それぞれ学習に励んでいます。

全校児童生徒で取り組む大きな行事として、運動会・学習発表会があります。

特に、学習発表会では訪問学級生も参加し、個性豊かな発表が繰り広げられます。今年の学習発表会のテーマは

「えがおで おもてなし」

ステージ発表・作業体験・お茶席・作品販売など盛り沢山の「おもてなし」を、心を込めて笑顔いっぱい発表しました。



さをり織の初体験。
ドキドキ・・・

学校に集まってくださったすべての人々に、児童生徒のおもてなしの心が伝わった、ほのぼのとした1日となりました。

★地域での支援活動を行っています★

地域の保育園・幼稚園や小中学校で、学習や集団生活において、苦戦している子どもや保護者の相談に応じて、一緒に改善方法を考えていきます。

障害の有無にかかわらず、子どもたちが気持ち良く笑顔で暮らせる明るい地域になればと、支援部を中心に取り組んでいます。

相談を希望される方は、左記に電話にてご連絡ください。

0795(32)3672

児童館であそぼう



中児童館 ドミノあそび

児童館では、ここでしかできない体験を通して、自主性・創造性・コミュニケーション力を高め、心身ともに健やかな「多可っ子」を育てることを目標にいろいろな企画を立てています。

土曜日には、「中児であそぼう！」（中児童館）、「みなみであそぼう！」（みなみ児童館）で、工作や科学教室、いろいろなあそびを提供し、広く児童の居場所づくり・活動場所づくりを進めています。

また、児童企画型の事業「こどもまつり」、「コミバス体験・中級編」や、地域の特性を活かした「わくわく体験教室」など心豊かな児童の育成のため尽力しています。



みなみ児童館 土曜日あそびのプログラム「四季あそび」のようす

- 開館日 火曜日～土曜日
- 利用時間 9時～17時
- 利用対象者 0歳～18歳

就学前のお子さんは、保護者の方と一緒に利用してください。小学生以上は、児童だけで利用できます。

また、児童館の企画に参加したことのない人は一度参加してみてください。

そして、参加してみて、どうだったか、感想や意見を私たちにおしえてください。

企画のお知らせは「じどうかんだより」や「わくわく体験教室」のチラシにのせていますので、見てください。

中児童館 中区高岸425の6

電話(32)4328

みなみ児童館 加美区的場68

電話(35)1420